



普通高等教育“十一五”国家级规划教材  
新世纪高等学校日语专业本科生系列教材

总主编 谭晶华

# 现代日语词汇学 (修订本)

主 编 沈宇澄  
编 著 沈宇澄 周 星





普通高等教育“十一五”国家级规划教材  
新世纪高等学校日语专业本科生系列教材

总主编 谭晶华

# 现代日语词汇学 (修订本)

主 编 沈宇澄  
编 著 沈宇澄 周 星

## 图书在版编目(CIP)数据

现代日语词汇学 / 沈宇澄, 周星编著. — 修订本.

— 上海: 上海外语教育出版社, 2012

(新世纪高等学校日语专业本科生系列教材)

ISBN 978-7-5446-2054-3

I. ①现… II. ①沈… ②周… III. ①日语—词汇学—  
高等学校—教材 IV. ①H363

中国版本图书馆CIP数据核字(2001)第198460号

出版发行: 上海外语教育出版社

(上海外国语大学内) 邮编: 200083

电 话: 021-65425300 (总机)

电子邮箱: bookinfo@sflep.com.cn

网 址: <http://www.sflep.com.cn> <http://www.sflep.com>

责任编辑: 曹 艺



印 刷: 昆山市亭林彩印厂有限公司

开 本: 890×1240 1/32 印张 9.75 字数 260千字

版 次: 2012年2月第1版 2012年2月第1次印刷

印 数: 3 100 册

书 号: ISBN 978-7-5446-2054-3 / H · 0897

定 价: 18.00 元

本版图书如有印装质量问题,可向本社调换

新世纪高等学校日语专业本科生系列教材编委会

总主编：

谭晶华

编委：(以姓氏笔画为序)

|     |          |
|-----|----------|
| 王 勇 | 浙江工商大学   |
| 王健宜 | 南开大学     |
| 叶 琳 | 南京大学     |
| 皮细庚 | 上海外国语大学  |
| 许慈惠 | 上海外国语大学  |
| 纪太平 | 厦门大学     |
| 杨诒人 | 广东外语外贸大学 |
| 严安生 | 北京外国语大学  |
| 吴 侃 | 同济大学     |
| 吴大纲 | 上海外国语大学  |
| 陈 岩 | 大连外国语学院  |
| 张 威 | 清华大学     |
| 陆留弟 | 华东师范大学   |
| 庞志春 | 复旦大学     |
| 胡振平 | 解放军外国语学院 |
| 修 刚 | 天津外国语学院  |
| 洪栖川 | 东北师范大学   |
| 高 宁 | 华东师范大学   |
| 高文汉 | 山东大学     |
| 宿久高 | 吉林大学     |
| 谭晶华 | 上海外国语大学  |





## 总 序

21 世纪是一个国际化的高科技时代,也是一个由工业社会进一步向信息社会转化的时代。科学技术的高速发展、新兴交叉学科的涌现、人文文化与科学技术间的相互渗透和融合、社会的信息化以及知识、信息传播技术的日新月异加强了世界各国文化的交流、碰撞与合作。要想在激烈的世界竞争中立于不败之地,就要占领人才培养的制高点,培养出世界一流的高素质、高水平人才。

由于社会对外语人才的需求已呈多元化趋势,以往那种单一外语专业的基础技能型人才受到挑战。今后我们仍然需要培养《源氏物语》的专门研究家,但是高校外语专业的教学必须从过去的“经院式”人才培养模式向宽口径、应用性、复合型人才培养模式转化。社会要的不光是懂外语的毕业生,还需要思维敏捷、心理健康、知识广博、综合能力强的精通外语的专门人才。

我国的外语教学界已充分认识到,对国家建设发展急需的外语专业人才加大培养力度,提高其能力和素质是一项迫在眉睫的任务。随着我国日语专业教学点设置的不断增加和招生规模的逐年扩大,日语专业本科生的教学改革、学科建设及教材出版亦取得很大的成绩,各地先后出版了一批在全国有影响的优秀教材。正因为社会对日语人才的培养提出了更高的标准,同时对日语学科的建设也提出了新的要求,因

此,日语本科生教材的编写和出版也应该顺应潮流,开拓创新。

我国外语教材和图书出版的基地、领头羊之一的上海外语教育出版社(外教社)以高度的责任感和高瞻远瞩的视野,在充分调研的基础上,抓住机遇,于2003年8月邀请了全国主要外语院校和教育部重点综合大学日语专业的近20位专家,在上海召开了“全国高等学校日语专业本科生系列教材编写委员会会议”。代表们完全认同编写“新世纪高等学校日语专业本科生系列教材”的必要性、可行性及紧迫性,并对编写立意、教材构建、编写审校程序提出了许多积极、中肯的建议和要求。之后,外教社又多次召开全国及上海地区专家学者会议,分头撰写编写大纲,确定教材类别、项目,讨论审核样稿。经过两年多的努力,终于迎来了第一批书稿的付梓。

本套教材共分语言知识、语言技能、语言学与文学、语言学与文化、语言学与翻译(中日对译)、人文科学、经济贸易、测试与教学法等若干板块,可以说几乎涵盖了当前我国日语专业所开设的全部课程。编写内容根据因材施教的原则,深入浅出,反映各个学科领域的最新研究成果;编写体例采用国家最新有关标准,力求科学、严谨;编写思想贯彻了在帮助学生打下扎实的语言基本功的基础上,培养学生分析和解决问题能力的原则,全面提高学生的人文、科学素养,养成健康向上的人生观,成为合格的外语专门人才。

本套教材编写委员会云集了我国日语界学者专家,其中不少是高等学校外语专业指导委员会的委员。每一种教材均由编写委员会的专家们仔细审阅后确定,有的是从数种候选教材中遴选,总体上代表了中国日语教材学发展的方向和水平。我们相信,外教社这套“新世纪高等学校日语专业本科生系列教材”的编写和出版,一定会促进和提高我国日语专业本科中教学质量的稳步提高,其前瞻性、先进性和创新性也将为日语教材的编写拓展更为广阔的视野。

谭晶华

上海外国语大学常务副校长



## 前

## 言

《现代日语词汇学》主要介绍了日本语言学三大基础部分之一的词汇、语义学的概论、体系及语义的分析、记述方法，近义词的比较及中日词汇的对照研究。本书可供高等学校日语专业本科高年级专业课及研究生基础课程教学使用，也可用作日语工作者和日语自学者参考书。

日语词汇学是我国日语教学和研究的重要一环，是整个日语教学体系中不可忽视的方面。然而，与日语语法的教学和研究相比起步较晚，是日语教学中较为薄弱的环节。本书注意吸收国内外日语学术界的最新研究成果，并总结了作者在长期的教学实践中积累的研究心得；介绍有关日语词汇的体系、构成及位相等基础理论知识，使学习者系统地了解日语词汇的产生、组成、演变，明确日语词汇的构造及研究范畴；在此基础上进一步论述语义的记述、分析的基础方法，尤其注意到结合教学中的重点和难点，以一些典型的语言材料为例，通过分析比较等具体方法，帮助学习者理解日语语言的本质和功能，掌握语言的发展规律，使学习者能准确熟练地运用语言材料，并培养其词汇、语义方面的科研能力。

与目前国内现有的一些日语词汇教材不同，本书全文用日语撰写，目的在于使有一定日语基础的学习者更直接、确切地理解日语词

汇学的内涵,也便于教师授课。全书共分十六章,各章末均附有练习。其中周星编写了第二、四、五及十六章,其余由沈宇澄负责编写。

在本书的编写过程中,承蒙日本国际交流基金日语国际中心的大力支持,并得到日本著名学者、早稻田大学森田良行教授的悉心指导,他还对正文进行了仔细审阅。上海外国语大学皮细庚教授对本书提出了宝贵的意见,还得到了复旦大学项杏林教授及上海外国语大学日本文化经济学院教师的热情帮助。在此谨表示衷心感谢。

本书自1998年出版以来,受到了广大使用者的欢迎,至今已重印了多次。为了进一步提高质量,我们对教材内容重新作了认真的梳理,进行了适当的增删。尤其加强了对日语词汇的特征、词的词汇意义及构造等方面的分析说明,补充了相应的实例。另外,附加了练习答案,以供参考。虽经仔细修改,但仍可能存在欠妥之处,敬请同行专家和读者给予批评和指正。

作者

2010年6月



## 目

## 录

|                      |    |
|----------------------|----|
| 第一章 語彙と語彙論 .....     | 1  |
| 第一節 語彙 .....         | 2  |
| 第二節 語彙論 .....        | 3  |
| 第三節 語彙論の研究分野 .....   | 4  |
| 第四節 語彙論の研究の視点 .....  | 7  |
| 第五節 日本語の語彙の特徴 .....  | 10 |
| 練習 .....             | 12 |
| 第二章 語の計量 .....       | 15 |
| 第一節 日本語の量と語彙調査 ..... | 15 |
| 第二節 基礎語彙と基本語彙 .....  | 19 |
| 第三節 日本語教育と基本語彙 ..... | 22 |
| 練習 .....             | 25 |
| 第三章 単語 .....         | 27 |
| 第一節 単語の定義 .....      | 27 |
| 第二節 単語の認定 .....      | 28 |
| 第三節 単語の成り立ち .....    | 29 |
| 第四節 単語の性質 .....      | 34 |
| 第五節 同音語と同形語 .....    | 37 |
| 第六節 擬音語・擬態語 .....    | 39 |
| 練習 .....             | 43 |

|            |               |     |
|------------|---------------|-----|
| <b>第四章</b> | <b>語の構成</b>   | 47  |
| 第一節        | 語基と接辞         | 47  |
| 第二節        | 単純語           | 49  |
| 第三節        | 派生語           | 49  |
| 第四節        | 複合語           | 52  |
| 第五節        | 複合語の成分と意味関係   | 55  |
| 第六節        | 合成語の音声変化      | 61  |
| 練習         |               | 63  |
| <b>第五章</b> | <b>語種</b>     | 65  |
| 第一節        | 固有語と借用語       | 65  |
| 第二節        | 和語            | 67  |
| 第三節        | 漢語            | 71  |
| 第四節        | 外来語           | 77  |
| 第五節        | 混種語           | 84  |
| 練習         |               | 86  |
| <b>第六章</b> | <b>語彙の位相論</b> | 89  |
| 第一節        | 男性語と女性語       | 90  |
| 第二節        | 階級語・職業語・集団語   | 95  |
| 第三節        | 幼児語・老人語・若年層語  | 99  |
| 第四節        | 方言            | 103 |
| 練習         |               | 108 |
| <b>第七章</b> | <b>語彙の様相論</b> | 111 |
| 第一節        | 話しことばと書きことば   | 112 |
| 第二節        | 雅語と俗語         | 118 |
| 第三節        | 敬語と一般語        | 121 |
| 練習         |               | 124 |

|             |                |     |
|-------------|----------------|-----|
| <b>第八章</b>  | <b>語彙の変遷</b>   | 127 |
| 第一節         | 語彙の量的変化と意味的变化  | 127 |
| 第二節         | 語の意味変化のパターン    | 130 |
| 第三節         | 文脈による意味変化      | 137 |
| 第四節         | 意味変化にかかわる要因    | 137 |
| 練習          |                | 139 |
| <b>第九章</b>  | <b>語彙の体系</b>   | 143 |
| 第一節         | 上位語と下位語        | 143 |
| 第二節         | 同位語            | 147 |
| 練習          |                | 153 |
| <b>第十章</b>  | <b>語の意味構造</b>  | 155 |
| 第一節         | 指示的意味と周辺の意味    | 155 |
| 第二節         | 周辺の意味の諸相       | 158 |
| 第三節         | 意義素と意味特徴       | 162 |
| 第四節         | 単語の意味の多義性      | 164 |
| 練習          |                | 170 |
| <b>第十一章</b> | <b>反義語と対義語</b> | 173 |
| 第一節         | 反義語            | 173 |
| 第二節         | 対義語            | 177 |
| 練習          |                | 183 |
| <b>第十二章</b> | <b>類義語</b>     | 187 |
| 第一節         | 類義語と同義語        | 187 |
| 第二節         | 類義語の分類         | 188 |
| 第三節         | 同音類義語          | 195 |
| 第四節         | 隣接関係を持つ類義語     | 196 |

|               |                        |            |
|---------------|------------------------|------------|
| 第五節           | 類義語を生み出す原因 .....       | 198        |
| 練習            | .....                  | 200        |
| <b>第十三章</b>   | <b>類義語の認定と視点 .....</b> | <b>205</b> |
| 第一節           | 類義語の認定 .....           | 205        |
| 第二節           | 類義語研究の視点 .....         | 208        |
| 練習            | .....                  | 221        |
| <b>第十四章</b>   | <b>意味分析と記述 .....</b>   | <b>225</b> |
| 第一節           | 意味分析の方法 .....          | 225        |
| 第二節           | 動詞の意味記述 .....          | 229        |
| 第三節           | 形容詞の意味記述 .....         | 231        |
| 練習            | .....                  | 234        |
| <b>第十五章</b>   | <b>慣用句 .....</b>       | <b>239</b> |
| 第一節           | 定義 .....               | 240        |
| 第二節           | 慣用句の性質 .....           | 244        |
| 第三節           | 慣用句の成り立ち .....         | 247        |
| 練習            | .....                  | 251        |
| <b>第十六章</b>   | <b>日中同形語 .....</b>     | <b>255</b> |
| 第一節           | 言語の対照研究と日本語教育 .....    | 255        |
| 第二節           | 日中同形語の誤用現象 .....       | 258        |
| 第三節           | 日中同形語の分類 .....         | 259        |
| 練習            | .....                  | 272        |
| <b>練習参考答案</b> | <b>.....</b>           | <b>275</b> |
| <b>参考文献</b>   | <b>.....</b>           | <b>299</b> |



## 第一章 語彙と語彙論

文を構成するのは語彙と文法である。文法は単語を組み合わせて文をつくる際の決まりである。語彙は語のまとまりの総体を指し、それらの中から題材にあわせて語を選び、文法の規則にしたがって文をつくる。したがって語彙と文法は密接に関係しあって結びついている。例えば、

先生は私達に日本の歌を教える。

という文では、「先生」「私達」「日本」「歌」「教える」という五つの単語は意味内容を表す自立語で、「は」「に」「の」「を」はそれら五つの単語がそれぞれ意味の上で他の部分とどうかかわっているかを示す役割を果たしている。つまり、この五つの単語をまとめる付属語は文を構成する文法的な働きを持っている。そして、文の終わりに立つ「教える」は、意味内容を表すと同時に、文をしめくくる文法的な役割も持っている。このように一つの文は意味を表す単語と文法的な働きを示す付属語によってつくられている。これらの文法と語彙はそれぞれ言語学の研究対象として、独立した体系を持ち、文法論、語彙論の領域をつくっている。

## 第一章 語彙と語彙論

### 第一節

### 語 彙

語彙ということばは一般の人にとってなじみのないことばで、私達語学を専攻している人の中にも「語彙」と「語」、または「単語」との区別がつかずに使っている傾向がある。語彙は語と異なる概念である。定義づければ次のとおりである。

語は言語のもっとも基本的で、重要な単位である。一つ一つの語にはそれぞれ意味があり、特性がある。

語彙は単語の総体であり、あるまとまりを持った語の群である。「彙」は「なかま・類」という意である。英語のボキャブラリー(vocabulary)に相当する。例えば、

私は妹にボールペンをやった。

という文では、「私/妹/ボールペン/やる」はそれぞれ一定の意味を持つ単語である。これらの単語はばらばらに雑然と存在して、意味的に相互に無関係にあるものでない。「は/に/を」の助詞と「た」の助動詞をつけることによって繋がりをもち、全体として一つのまとまりをなしている。そこでこの文の語彙は四つの自立する語と付属する語であるということになる。

もう少し厳密な定義をつければ、語彙は一定の範囲において用いられている単語の集合である。「ある一定の範囲」とは、なんらかの限定がついた語の集合で、語のまとまり方を指す。語のまとまり方はさまざまである。例えば、『万葉集』という作品に限定すれば、『万葉集』の中に使われている単語の全体を「万葉集の語彙」

と呼ぶ。ある時代に限定すれば、「奈良時代の語彙」「平安時代の語彙」などがあり、京都地方で使う語を集めれば、「京ことば」としてまとめられ、子供の世代に限定してみれば、「幼児語」がある。更に範囲を最大限に広げれば、「日本語の語彙」「中国語の語彙」などができあがる。

また、ある意味を中心に集まる語のグループをつくることもできる。例えば、次のようなグループがある。

- A. シャツ      スカート      背広      ワンピース……
- B. とぶ          はしる          あるく      かける……
- C. 大きい      小さい      高い      低い……

A組は身にまとうもの、体に着るもので、それは一つのまとまりを持って衣服に関する語彙をつくる。B組は動作の移動に関する語の群で、C組は物事の程度を表す語群である。

語彙はこのように特定の言語、地域、集団、作品、事柄などある一定の範囲において用いられている語のまとまりである。その限定の範囲は文レベル、文章レベル、特定の個人のことば、さらに特定の言語全体にまでわたっている。

## 第二節

### 語彙論

語彙論は語と語彙を研究の対象とする学問である。音韻論や文法論と並ぶ言語研究の重要な一分野である。狭義の語彙論は語の構造、語彙の変化、語彙の体系の研究にとどまり、広義の語彙論は、語源論、意味論、辞書学なども含まれる。このように語彙を体系的

## 第一章 語彙と語彙論

にとらえ、研究し、語彙の性質、語彙の多様な様相を明らかにすることが語彙論の目的である。

語彙論は一般的語彙論、比較語彙論、具体的語彙論に分けられる。一般的語彙論は語と語彙の法則、語彙の一般的な理論を研究するもので、比較語彙論は同じ言語体系における諸言語の語彙の相違を研究するものである。具体的語彙論はそれぞれ違った言語の語彙を研究するものであり、その中に史的語彙論と記述的語彙論に分けられる。一方は語彙の歴史についての研究で、いままで発展してきた過程をさぐり、一方は現代語彙の体系の法則を見つけ出す研究である。

語彙についての研究は音韻論や文法研究に比べてかなり遅れている。特に日本語の語彙についての組織的研究はこれまで乏しかった。しかし、1950年頃から語彙・意味についての調査研究が次第に進められ、いろいろな成果が見られるようになった。その代表的なものとして『分類語彙表』をはじめとする日本国立国語研究所の一連の調査研究があげられるだろう。

### 第三節

#### 語彙論の研究分野

日本語語彙論というものの中にどのような研究分野が収められるかという、一般に次の七つの分野に分けられる。

##### 1. 語彙体系論

語彙の体系的な構成についての研究である。意味による語彙の分割と関係づけ、いわば概念の組織化である。語の意味は孤立し



て存在しているのではなく、それぞれ何かの繋がりを持ち、グループをつくっている。例えば、時間という概念をとりあげれば、そのうち、月を単位とする場合、今月・来月・先月……時間の流れからとらえた場合、一日・二日・三日……このように幾層にも分けられる。また、人間の血筋からとらえれば、親族語彙があり、色を問題にしてみれば、色彩語彙がまとめられる。

## 2. 計量語彙論

語彙の数量的取扱いを論じるもので、語彙の総量の推定や統計的な性格についての研究であり、統計的な手法により、語彙の量の構造を明らかにしようとする分野である。新聞・雑誌・教科書など種々の分野における語彙の動態的な研究や機械翻訳・情報検索など各種の言語情報処理に必要な語彙テーブルの研究などには電子計算機による大規模な調査や分析が行なわれている。国立国語研究所『現代雑誌九十種の用語用字』(1956年)が有名である。近來コンピューターの導入によって多くの成果をあげている。

## 3. 語種構成論

日本語の語彙はその出自から大きく在来語と借用語に分けられる。在来語というのはもともと日本語の中であって、外国から受け入れたものでない単語である。それを「和語」(または「固有日本語」とか「やまとことば」)という。借用語はほかの言語からの借用によるものを指す。借用の層は、中国語からの借用と、中国語以外の他言語からのものに区別される。昔の中国語から借用し、漢字で書かれ、そして音読みになる語を「漢語」(または「字音語」)と呼び、中国以外の他言語(ヨーロッパ語を主とする)から受け入れた語を「外来語」(または「洋語」)と呼ぶ。また以上の三種のうち二つ以上の結合によって出来ている語もある。それを「混種語」と呼ぶ。

## 4. 基礎語彙論

基本的・中核的な語彙の性格とその選定法についての研究であ